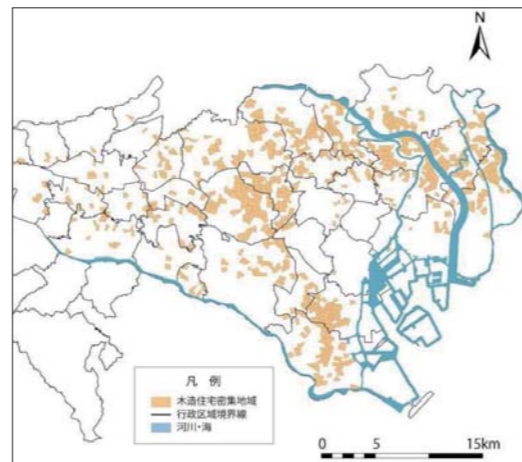


東京都における密集市街地の現状

- 戦後の復興期や高度経済成長期に形成された山手線外周部付近の木密地域(都内では13,000ha)では、接道条件が悪いことや狭小敷地などにより、老朽木造建築物の更新が進んでいないのが現状です。
- また、昭和50年代に建築された老朽木造建築物の密集地や、将来建築物の老朽化により木密地域になるおそれのある地域、又は、農地や企業のグラウンドなど土地利用の転換時にミニ開発が進むおそれのある地域が存在します。

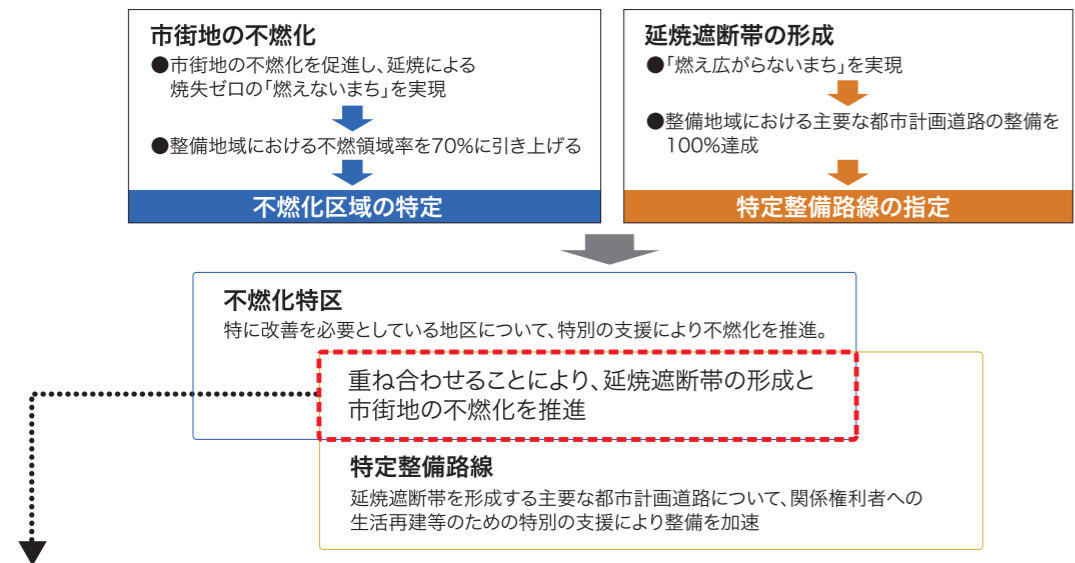


出典「防災都市づくり推進計画(改定)2016(平成28)年3月」(東京都)

東京都による密集市街地改善に向けた取り組み

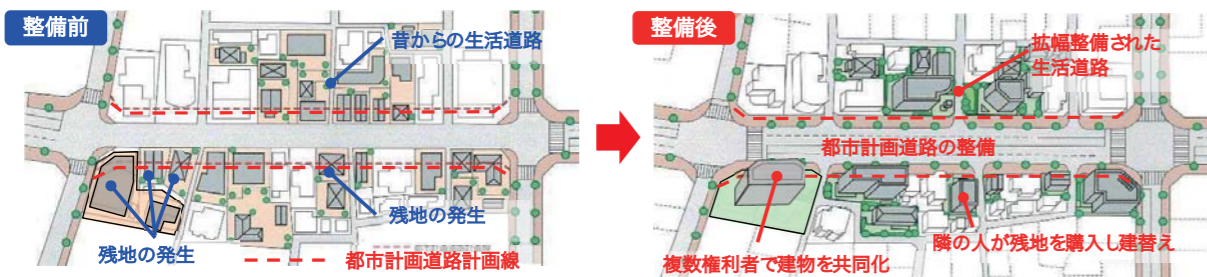
【東京都木密地域不燃化10年プロジェクト】

- 東京都防災都市づくり推進計画における[重点]整備地域を対象に、10年間の重点的・集中的な取組を実施し、木密地域を燃え広がらない・燃えないまちにする。



【道路整備と一体的に進める沿道まちづくり】

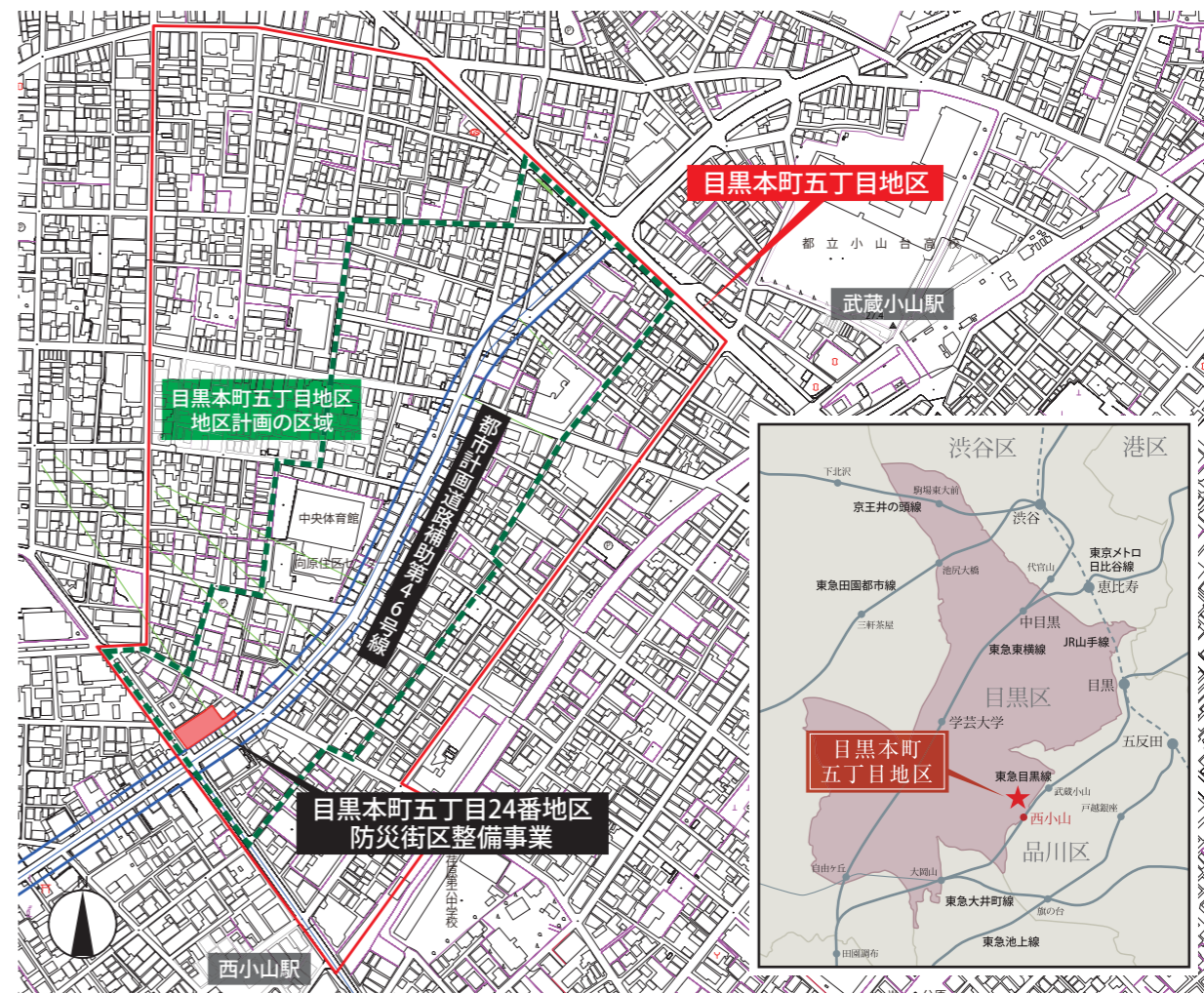
- 東京都が行う道路整備に合わせて、民間活力を活用しながら沿道の効率的な土地利用の促進を図る。



出典「防災都市づくり推進計画(改定)2016(平成28)年3月」(東京都)

地区の概要

- 目黒本町五丁目地区は目黒区の東南部、品川区と接する位置にあり、地区の南側には東急目黒線西小山駅があります。
- 京浜工業地帯の一角を形成してきた経緯から小規模な製造事業所が多く、下町的な雰囲気を残しています。
- 一方で、大正12年の東急目蒲線開通に伴い西小山駅を中心に市街化が進んできた地区で、多くの老朽化した木造建築物が密集している状況です。



目黒本町五丁目地区のまちづくり(目黒区の取り組み)

- 当地区は、東京都の「防災都市づくり推進計画(平成28年3月改定)」において重点整備地域に指定されています。
- 目黒区が昭和63年に「木造賃貸住宅地区総合整備事業」を導入、現在は「木造住宅密集地域整備事業」により、防災上及び住環境の課題を解決するための取り組みを進めています。
- 平成19年度からは、補助46号線整備に併せて、東京都と目黒区が連携して災害に強いまちづくりを目指して「道路整備と一体的に進めるまちづくり」に取り組んでいます。
- 補助46号線沿道まちづくりの一環として、平成22年1月に「目黒本町五丁目地区地区計画」が策定され、同年より「都市防災不燃化促進事業」が推進されています。
- 平成25年11月に目黒区目黒本町五丁目全域が「不燃化特区」に指定され、木密地域を燃え広がらない・燃えないまちとするため、重点的・集中的な取り組みが推進されています。